

## エゾアカガエルによる アズマヒキガエルへの抱接

徳田龍弘<sup>\*1</sup>・鈴木大<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 〒 005-0021 北海道札幌市南区真駒内本町 7-4-27 ばいかだ WILD-PHOTO  
<sup>\*2</sup> 〒 005-8601 北海道札幌市南区南沢 5 条 1-1-1 東海大学 生物学部 生物学科

2020年4月19日19時40分頃、北海道札幌市南区北ノ沢にある少年野球場の側溝内の水中（微弱な流れを伴う止水）で、エゾアカガエル (*Rana pirica*) の成体オスがアズマヒキガエル (*Bufo japonicus formosus*) の成体オ스에抱接しているのを確認した(図1)。しっかりと抱接となっており、アズマヒキガエルは嫌がっている様子を見せたが、振りほどくことはできずにいた。当時の天候は晴れであり、気温の計測は行っていなかったが気象庁のWEB サイトでは、19時40分及び19時50分の札幌の気温は10.4℃であった。ただし、側溝には雪解け水が流れ込んでおり、水温は気温よりも低かった可能性が高いと思われた。また、その後の調査で側溝内でのエゾアカガエルやエゾサンショウウオ (*Hynobius retardatus*) の産卵が見られたが、アズマヒキガエルの産卵は見られなかった。

無尾目(カエル目)のオスが別種の無尾目や分類の全く異なる動物に抱接を行う事例はよく知られる(南部, 1991; 前田・松井, 1999)。アズマヒキガエルは北海道では国内外来種であり、本来エゾアカガエルと野生で出会はずのない組み合わせであったが、アズマヒキガエル

の定着増加により、抱接の確認がされたことは、直接接触による病原体(本来エゾアカガエルには見られない細菌や寄生生物など)の伝播や、エゾアカガエルの繁殖行動への影響が懸念される。

### 引用文献

- 気象庁.2020.気象統計情報.<<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/>>.(2020/12/1 アクセス)  
前田憲男・松井正文.1999.日本カエル図鑑改訂版.文一出版,東京,187.  
南部久男.1991.カエル・サンショウウオの異種間及び異常抱接例.富山市科学分化センター研究報告14:147-148.

## アズマヒキガエルの遅い繁殖事例

八谷和彦

〒 074-1273 北海道深川市音江町二丁目 6-46 深川ひきがえるバスターズ

北海道における国内外来種アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* (以下、ヒキガエルと略記)成体が池に集まって抱接し産卵する時期、すなわちヒキガエルの繁殖時期は、石狩川の中流域にある深川市では、場所や年次によって多少異なるものの、多くのケースで5月上旬から中旬がピークであり、最も遅い事例でも5月27日がピークであった(八谷,2018a)。しかし、この報告以降も著者が同市内で観察を続けたところ、6月に入ってからピークとなる事例があったので報告する。

### 1. 観察場所、および捕獲個体数の推移

同市内では著者が所属するグループが毎年10~15個の池においてヒキガエルの駆除活動を行っている。遅い繁殖が観察されたのは、そのうちのひとつである深川市音江町国見のK池群(標高約110m,約28×18mのおおよそ長方形をした大きめの池“K大池”と、そこから距離で約15m離れ、高さで約3m低いところにある直径約10mの楕円形をした小さい池“K小池”)で、2020年においてである。駆除活動の一つとして繁殖期にほぼ毎日、日没後に池付近を見回り、成体を捕獲しているので、その捕獲個体数の推移を、同池群で捕獲を始めた2019年分とあわせて表1に示した。比較のため、その約800m東にあるM池(標高約120m,約25m四方のほぼ正方形)と約2.3km



図1. アズマヒキガエルの背面前方に抱接するエゾアカガエル